



ご挨拶

～次代の先駆者を目指して！～

2008年度 社団法人淡路青年会議所
理事長 中川 浩明

社団法人淡路青年会議所は創立以来、淡路はひとつを基本理念とし、明るい豊かな淡路島の実現に向けて活動し、創立46周年を迎えます。

我々は環境・価値観が著しく変化しても、この使命・理念そして伝統を継承し、青少年育成・まちづくり・環境・地域活性化等の事業を行い、地域貢献を目指して参りました。そして活動を通して、人と人とのつながりの中で個に磨きをかけ、メンバー同士が深く関わり合い、感謝・感動の中から同じ志のもと絆を深め友情が生まれています。

我々 社団法人淡路青年会議所が真剣に議論し、しがらみに捉われることなく、次代を切り開く心意気をみせ、行動することにより 明るい豊かな淡路島の実現に半歩でも一歩でも進めると確信しています。

順調に物事が運んでいるときは意識もしませんが、暗礁に乗り上げたときどのように回避できるかが 真のリーダーシップだと考えます。青年会議所に属している意義とも言えることの一つとして、社会的にも同じような境遇の人同士が、同じ目的・同じ志をもって活動することにより、互いに切磋琢磨し、真のリーダーシップ・絆を深めた友情を得ることができる。

これは、青年会議所が自身を磨き、自己を高め、己に打ち勝つ場としては最高の舞台であるからです。

我々と共に次代を切り拓く、変革・挑戦をしましょう。それは必ずや自己の成長、企業の発展にも繋がります。我々の同志となって共に活動しましょう。

～次代の先駆者を目指して！～

皆様さんとのお逢いし、共に活動出来る事を心待ちにしています。

次代を切り拓け！
～魅せろ淡路の心意気～

青年会議所の目的

主たる目的は、若手経済人の「修練」「奉仕」「友情」を通じた「ひとづくり」である。この目的を実現するための手法として、「指導力開発/Leadership Development (LD)」「経営開発/Management Development (MD)」と「社会開発/Community Development (CD)」の活動を行ってきた。2000年からは、これらを集約した「人間力開発/Human Development (HD)」を活動の柱として推進している。

青年会議所とは？

日本では、社団法人日本青年会議所が中心となり、20歳から40歳までのリーダーを志す青年で構成されている。企業経営者やその後継者が多いが、会員の職業に関する制限は特に無く、サラリーマンでも入会可能。

活動の基本として「修練」「奉仕」「友情」からなる『三信条』、国際青年会議所の綱領である『JCI クリッド』、「会員は率先して行動する」ことをうたう『JC宣言文』、「明るい豊かな社会を作り上げよう」とする『綱領』を掲げる。

世界のJCの中でも日本はJC運動が活発な地域であり、卒業者を国会議員、地方議会議員、日本商工会議所、経済同友会、日本経済団体連合会など各界に多数輩出し、日本の政財界の一翼を担う人材を共育している。

2007年現在、日本全国の719の地域に「LOM（ロム）」と呼ばれる青年会議所が存在し、42,000名弱の「JAYCEE」と呼ばれる青年会議所会員が活動している。

組織の特徴

組織の大きな特徴として「単年度制」と「卒業」がある。

すべての組織は年度（1月～12月）単位で全ての役職を原則一新している。これを「単年度制」と呼んでいる。会員に様々な立場で多くの経験を積ませ、事業及び個人の停滞を防ぐ特徴がある。

また「卒業」とは40歳を迎えた会員がその年度末に満期退会扱いとなることを指し、卒業した会員は会の活動に直接関与することはできなくなる（卒業年度に理事長を務めた者が次年度に直前理事長として残る場合など、一部に例外はある）。卒業で会員は減少するので、**LOMは常に新入会員を募る必要がある。**

以上のことが組織の活性化を促しているとされ、JCの特徴のひとつである。

組 織

青年会議所活動の最小かつ基本単位は、都道府県の都市ごとに組織しているLOM（Local Organization Member、ロム）と呼ばれる青年会議所である。

LOMの連携・連絡調整機関として、日本青年会議所NOM（National Organization Member、ノム）があり、日本青年会議所のLOMに一番近い部門（組織）として都道府県ごとにブロック協議会が、ブロックの連携・連絡調整機関として、地方ごとに地区協議会が組織されている。

ブロック協議会、地区協議会、日本青年会議所の構成メンバーは各LOMから輩出し、それぞれの組織に所属する。このことを出向と呼んでいる。出向者は出向先だけでなく、LOMの委員会にも所属する。

多くの青年会議所は公益法人としての社団法人格を有していて、監督官庁の指導のもと運営を行っている。

青年会議所出身の著名人

日本JC

内閣総理大臣

- 中曽根康弘（高崎JC、第71～73代内閣総理大臣）
- 故小渕恵三（第84代内閣総理大臣）
- 森善朗（小松JC、第85、86代内閣総理大臣）
- 小泉純一郎（横須賀JC、第87～89代内閣総理大臣）

その他、細川元総理、羽田元総理など

国会議員

- 麻生太郎（飯塚JC、元会頭、外務大臣）
- 鴻池祥肇（尼崎JC、元会頭、元国務大臣）
- 西村康稔（明石JC、衆議院議員） 他 多数

企業その他

- 牛尾治朗（東京JC、元会頭、ウシオ電機会長）
- 服部禮次郎（東京JC、元会頭、セイコー名誉会長）
- 柿崎順一（科野JC、元理事長、芸術家、華道家）
- 千玄室（京都JC、元会頭、裏千家前家元）
- 越本隆志（宗像JC、在籍中第34代WBC世界フェザー級王者獲得）



海外JC

国家最高責任者

- ジョン・F・ケネディ（アメリカ合衆国 元大統領）
- リチャード・ニクソン（アメリカ合衆国 元大統領）
- ビル・クリントン（アメリカ合衆国 元大統領）
- ジェラルド・F・フォード（アメリカ合衆国 元大統領）
- ロナルド・レーガン（アメリカ合衆国 元大統領）
- アルベール2世（モナコ公国 大公）
- ウゴ・バンセル・スアレス（ボリビア 元大統領）
- ジャック・ルネ・シラク（フランス 元大統領）
- フレデリック・ウィレム・デクラーク（南アフリカ共和国 元大統領）
- ジョセフ・エストラダ（フィリピン 元大統領）
- ヴェルター・シェール（ドイツ 元大統領）



企業その他

- ビル・ゲイツ（アメリカ合衆国 マイクロソフト創業者）
- トム・モナハム（アメリカ合衆国 ドミノピザ創業者）
- チャールズ・リンドバーグ（アメリカ 1927年ニューヨーク・パリ間の大西洋横断無着陸飛行に成功。また、1931年には北太平洋横断飛行にも成功）
- コフィー・アナン（ガーナ 第7代国連事務総長 2001年国際連合とともにノーベル平和賞を受賞）
- ラリー・バード（アメリカ合衆国 元NBA選手）
- ラリー・ホームズ（アメリカ合衆国 ボクシング元ヘビー級王者）
- ハワード・ヒューズ（アメリカ合衆国 実業家、映画製作者、飛行家）



その他、ジャック・ニクラウス（プロゴルファー）、アンドレア王子（モナコ王国王子）など数多くの出身者が世界各地で活躍中！

先駆者の学び舎

人は皆、常に自分を向上させようとしています。しかし、それを行動に移す事がなかなか出来ずにいる人が大半を占めているのではないのでしょうか。「明日またがんばったらいいや…」とか、「今の自分でもなんとかなるから、また機会があったら…」というふうに考えがちです。そういった考え方では、ずっと平行線をたどってしまっているかもしれません…。

自分を向上させるために先駆者たちは何を考え、どんな行動をとってきたのでしょうか。答えは一つです、学ぼうとする努力です。努力には、いろんな意味での投資、「時間」「お金」「労力」が含まれるのではないのでしょうか。しかし、今まで淡路を支えてきた先駆者たちは、自分の時間や労力を犠牲にしてでも、何かをやり遂げようとしたに違いありません。『すばらしい明日の淡路のために！』と。先駆者たちは、そういった時間の中で貴重な経験をし、それを自分の経験値を上げるための有意義な時間と考え行動しているのだと思います。JCは、そんな経験の出来、学べる場所だと思います。

分からない分野に踏み入る事は、容易でないことは私たちも十分わかっております。しかし、難しい問題から目をそむけてはなにも始まりませんし、自分がもしかしたら出来るかもしれない貴重な経験を、機会を自ら放棄しているだけに過ぎないかもしれません。だれしも平等に機会は与えられるべきなのですから。

まず一步踏み出してみましよう。自分の可能性を信じて…。

WE BELIEVE

入会までの道のり

仮入会申込書を理事長に提出

STEP1

3ヶ月連続例会出席・委員会6回以上出席

STEP2

入会申込書を理事長に提出

STEP3

理事会にて審査・審議

STEP4

入 会

入 会 金 50,000 円

年 会 費 160,000 円 (前期8万円・後期8万円)

用語の説明

委員会とは

活動の基本となる会議のことで、委員会活動こそ町づくり運動の基礎となるものです。

委員会活動なくしてJCを語ることは出来ません。

JCに入会しますと各委員会に配属され、各委員会の事業を行います。

例会とは

例会は特別の場合を除き、毎月第2水曜日の午後6時半から午後9時まで全メンバーが集まって行われています。

例会では活動報告や意見が述べられます。

例会に出席する場合はスーツ・ネクタイ・ネームプレート・バッジを着用しなければなりません。

総会とは

総会には通常総会と臨時総会があります。

通常総会は1月及び12月に開催され、臨時総会は理事会等が必要と認めた場合に行います。現行では8月の臨時総会では次年度理事長、監事予定者の承認がなされます。

理事会とは

理事会は総会と並ぶ議決決定機関です。

理事のメンバーが集まり、主に委員会の事業活動の内容を議論、決定します。

またその他にも会議所運営に関する重要な事項を議決します。

三役会とは

三役とは理事長、副理事長、専務理事を指しています。

三役会は理事会の約10日前に開催され、理事会提出議案の整理や資料の取りまとめなどを行います。

青年会議所とはどのような団体ですか

青年会議所は、40歳以下の青年経済人によって組織されるまちづくりとひとづくりの団体です。

過去の事業

Let's challenge your dream!!

～未来の君を見つけよう～

(2005年度 平成17年)



社会開発委員会 委員長
新田 義隆(当時37才)



事業の趣旨

未来を担う子供たちの10年後、20年度を考えること、それが社団法人淡路青年会議所の目的「明るい豊かなまちづくり」につながるという観点から本事業を企画させていただきました。

私たちを含め大人は絶えず子供たちの将来について考える機会があります。が、一方子供たちは自分自身の将来について考える機会は何の程度あるのでしょうか？将来自分が大人になりどのような仕事をして、どのような生活をしているのかということを明確に考える子供たちは少ないような気がします。だからといって、それを時代や豊かさの責任にするのではなく、自分自身の将来像を考えることは子供たちにとって必ず有意義なものになると思います。

この事業は子供たちの将来像の内、「職業」という要素に絞った事業ですが、将来を担う子供たちにチャレンジスピリットを持って自分の未来像を考えて欲しいという趣旨と想いを元に開催させていただきました。

事業を行った後の反応や効果

当日は多くの子供たち、そして、保護者の方々に参加いただき、大変盛況に事業を開催することができました。また、この事業では10種の職業をピックアップしましたが、各それらの職種のプロの方々にご協力いただき、貴重なお話や丁寧な指導を頂戴しました。子供たちからのみならず協力者の方々からも良い事業でしたとのお言葉をいただき大変嬉しく思いました。後日配布したDVDをいつの日か机の底から出していただき、その日を思い出して夢を実現できるよう頑張ってくださいということが事業を終えた今思う我々青年会議所の願いです。

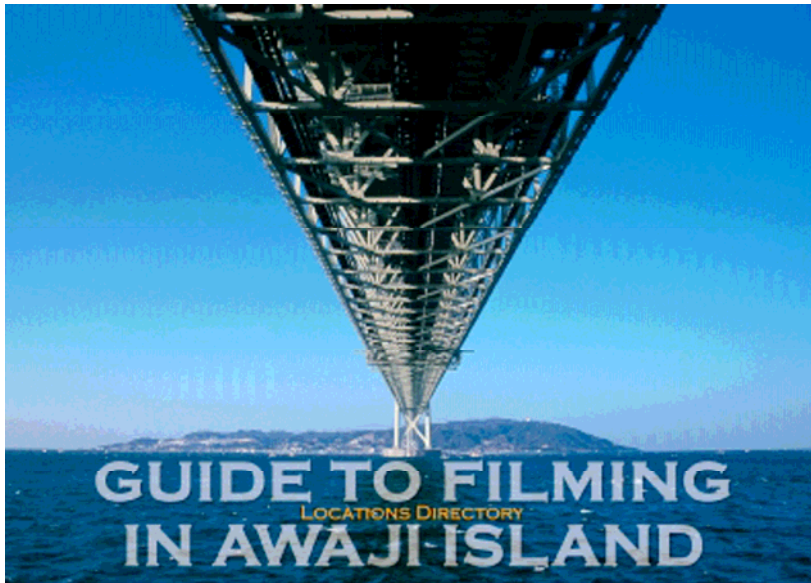
子ども達の感想文

2005年8月21日(日) パン屋さん
4年生
今日は、未来の君を見つけようということでわたしは、しょうらいどんなことをしているのかな？と思いながらパンを作っていました。パンを作っている時にインタビューされました。なんできかれたかというとしょうらいのゆめは？と聞かれました。わたしは、「自分で店を開けるようになりたい！！」と言いました。みんなは、「ちょっとまよってる」とかでした。わたしは、インタビューされたあと、パン屋もいいなあと思いました。やっぱりお客さんがいっぱいきてよるこんでもらうように作っていっぱいもうけて、そういう店を自分で開けたいからパンが一番いいと思います。パン作りがおわるとわたしは、パン屋を開くのもいいなと思いました。まあまた10才なのでいろいろかんがえてやっぱりこれがいいと思ったものにします！！今日は、とっても楽しかった。またやりたいです！！

2005年8月21日(日) パイロット
4年生
今日はパイロットのことがよく分かりました。家で何があるかな～と考えていました。ここに着いていっぱい人が来ていて、すごかったです。北原さんはすごい人だと思います。小さいときのゆめをかなえている人だからです。おもちゃの博物館を作りなんと30億円ものお金を持ち、8億円の家を買ってぼくはゴージャスだな～と思いました。ぼくはゆめがきまっていないから、今、何にしようかな～とまよっています。まあきぼうの中では一番よかったのはパイロットです。もしかしたらしょうらいパイロットになっているかもしれません。早くゆめをきめたいです。

淡路島フィルムオフィス設立フォーラム

(2005年度 平成17年)



フィルムオフィスとはフィルムコミッション(またはフィルムオフィス、以下FC)とは映画やテレビの作品を作るスタッフの手伝いをする事によりその地域の素晴らしいロケーションがメディアに露出する機会を増やす事により観光振興につなげたり、地場映像産業の育成につながったり、スタッフの直接的な経済効果を期待して、行政やボランティアなどで設立されるロケ支援組織であると一般には考えられている。



淡路活性化委員会
委員長 新谷 隆文
(当時 38才)

事業の趣旨

淡路島は、1市10町から3市へと新たな行政の枠組みが作られました。社団法人淡路青年会議所は設立以来、明るい豊かな淡路島づくりのため活動を進めてきましたが、今後も3つの行政区分を越えて活動を展開し、淡路島全体でまちづくりを行うという考えはこれからも持ち続けて行きたいと考えます。

地域の活性化は、その地域の人たちが主体的にかつ自主的に取り組んで始めて地に足のついた活性化になると言えます。淡路島の活性化の手法として新しい付加価値を持った情報発信、映画やテレビドラマなどの映像メディアを使う

ことが最も有効な手段のひとつであるとの結論に達しました。映像のロケ地の誘致や撮影の支援を行う組織「フィルムオフィス」を淡路島に設立し、映像作品を通じて淡路島の魅力を発信していきたいと考えます。

2008年度の動き

2008年度は中川理事長のもと特別室(長尾室長・木原理事・飛松理事・坂本・沖田)が担当し、他団体と連携をとり、進める予定である。

2007年度 過去の実績

- ・ 11月 朝日放送 ナイトドラマ「初恋net.com」
- ・ 9月 全国公開映画
- ・ 6月 テレビ大阪 深夜バラエティー
- ・ 11月 短編映画 「蟻の涙」
- ・ 6月 新人歌手 PV撮影
- ・ 6月 作業服用カタログ、カーテン用カタログ撮影
- ・ 4月 朝日放送 昼のドラマ「暖流」
- ・ 4月 スチールフィルム 「花の袋」

フィルムオフィス設置による効果

撮影スタッフによる消費需要や地域の映像関連産業振興、作品を見て当地を訪れる観光客による継続的な消費需要創造などの経済効果が期待されます。そして作品を通じた「淡路の魅力の再発見」「地域住民の積極参加による地域活性化」が挙げられます。

島外から訪れた撮影スタッフによって淡路島で撮影された映像作品を鑑賞することにより、住民が普段気づかないような淡路島の魅力を再発見し、さらに、住民がロケの現場を体験したり、俳優やスタッフとの直接的なふれあいの機会を持ったりして、映像の楽しさに触れることにより、改めて普段気づかないような郷土の魅力を再認識できるのではないのでしょうか。

大人が魅せよう心と背中 ～今も昔も変わらないもの～

(2006年度 平成18年)



青少年育成委員会
委員長 畑野 信行
(当時 33才)

事業の趣旨

これからの未来の担い手であるべきは子どもたちで、我々大人はその子どもたちを正しく導いていく義務があります。それこそが、我々が掲げる「明るい豊かな淡路島づくり」であると考え、この事業を企画させていただきました。

学校教育の細かなあり方が大きく指摘されつづけている昨今、子どもたちの成長過程を今一度考えてみても、すべての根本は家庭教育だと考えます。産まれてから物心つくまで、そして学校へ行くまでも家庭で基盤を見に付け世に送り出されるのです。それを疎かにしているにも関わらず、やれ学校がどうか先生がどうかと大声を張り上げている我々大人は一体何を今の子どもたちに魅せることができているのだろう。

今事業では、大人たちに(礼儀の大切さ)を題材に足元を見つめなおしてもらい、自らの日常生活が子どもたちに魅せるに恥ずかしくないか、手本となるにふさわしいのかを「ガチンコー大検ハイスクール」塾長を勤められていました 大和 龍門(やまとりゅうもん)氏 をお迎えし、参加者との対話式にて歯に衣着せぬ本音の「対話式ライブ」を開催いたしました。その後は「日常での実践集会」と称し、参加者の日常での素朴な出来事を題材に行いました。

大人たちがそれらを認識し、正道を歩むことで子どもたちに伝えることができた時、この淡路島の人々も、昔のように礼儀をしっかりとわきまえるようになり、青少年環境も改善へと向かっていけるものと確信いたします。



淡路島映画祭

(2006年度 平成18年)

平成の市町村の大合併が行われだんだんと地域格差が生まれようとしている今、我々地域住民が自分たちのまちの活性化をさせる原点は何か、それはいま住んでいる町に「誇り」を持っているか?ではないかと考えました。それらをよりたくさんの方々に理解していただける媒体(映像)を活用し全国の方々から「誇り」をテーマに映像作品を募集し、淡路島映画祭を開催させていただきました。



NEXTONE 委員会
委員長 徳脇 浩次
(当時 36才)

この時代だからこそひとの地域の、そして日本の誇りを持つことが重要であるということ全国に発信することができます。それが地域、日本そして世界の中で“誇り”を持ったひと、地域人、そして日本人として愛郷心、祖国愛をもったの明るい豊かなまちづくりの一助となる。また我々の地域＝淡路島において全国に誇れるものがあると再認識でき、地域を知ること誇りが重要であるという基本的なことを見直すことで明るい豊かな淡路島づくりにつながる。



事業を行った後の感想

8月19日20日の両日で淡路島映画祭を開催しました。全国から61作品の映像の応募があり、その中から10作品の表彰をさせていただきました。19日の前夜祭には出品者をはじめ100名を越える方々と映画について語り合い、20日には予想をはるかに超える600名を越える方々の来場があり、井筒和幸監督のトークショー「誇りを持って!」をはじめとした映画祭を開催させて頂きました。事業の組み立てなどにさまざまな苦難がありましたが、委員会メンバーに恵まれさまざまなアドバイスのもと事業を終了させていただけたと思います。

『あわじがいちばん!』

～知ろう、学ぼう、楽しもう～

(2007年度 平成19年)

事業の趣旨

今の子どもたちは一昔前に比べますと、それぞれの住む地域について知る機会が極端に少なくなっています。淡路島には島特有の温暖な気候と豊かな自然環境があり、そんな中だからこそ生まれた海産物・農作物・生花などがあります。また国生み神話・人形浄瑠璃に代表される古い歴史と伝統文化があります。本来、淡路島は子どもたちにとってどんな地域とも代え難い郷土となるはずが、このままでは単なる出身地ということだけの郷土となってしまいます。

私ども社団法人淡路青年会議所として、淡路島に住む子どもたちに対して、子どもたちが淡路島についてしっかりと学習し、その学んだものを心に持って、淡路島から飛び出し（島外に出て）島外の人に淡路島を伝え、島外の人からの評価を得ることにより、子どもたちの淡路島に対する故郷（ふるさと）意識が芽生え、そして淡路島に誇りを持てるものだと確信しております。



青少年育成委員会
委員長 後藤 英範
(当時 34才)



島外での伝道大使



子ども達の感想文

2007年8月22日（水）

観光部門

今日は、私のたん当は、「観光」でした。パンフレットをくばったりする時は、最初どうわたしたらいいのか、分からなかったけどいっぱいわたしていたら、なれてきました。パンフレットをわたしたら、お客さんが、「淡路は、いろんなのがいいねえ。」って言われました。すごくうれしかったです。他の部のお手伝いをした時、たまねぎをくばったりして、お客さんが、「淡路のたまねぎはあまくておいしいね。」と言ってくれたのが、すごくうれしかったです。「ありがとう。」と言ってくれたりすると、すごく、うれしかったです。インタビューを聞くと、「むずかしかった。」とか、「喜んでもらえた。」とか言っていた。と言っていました。今回、すごく楽しかったです。

2007年8月22日（水）

玉ねぎ部門

今日は淡路島のよさを大阪に発表しました。ほくは「玉ねぎ」はんです。玉ねぎのむくときすぐく目にしみました。玉ねぎを大人の人と切ってオニオンスープの中に玉ねぎを入れて水を入れたりしながら玉ねぎとベーコンをにこみました。つぎは玉ねぎをふくろに2つずつつめこんで大阪に人にくばりました。中に大阪の人に「わたし淡路の玉ねぎしか食べへんわ」と言ってくれてうれしかったです。このことをみんなに言うとうれしいなあと言ってくれました。

次は玉ねぎステーキをみんなにくばりました。最初にすごいぎょうれつができていました。食べてくれたほとんどの人がおいしいと言ってくれました。玉ねぎはやっぱり淡路の玉ねぎが一番と思いました。

感動“島”体験!

淡路島まるかじりフェスタ

事業の趣旨

(2007年度 平成19年)

「淡路島の人は恵まれている」

淡路島にいらした方がよく口にする言葉です。しかし一方で少し皮肉を含めて使われる言葉でもあります。淡路島の人は意外なほど淡路島の歴史・文化・産業等を知りません。地域に魅力があるからこそ、それがあたりまえになつてしまい私たちは淡路島の魅力や楽しみ方を十分に理解できなくなりがちです。これからの地域の活性化にはその地に住む住民の情熱と行動こそが必要です。そして地域の魅力を伝える努力をしなければいけません。社団法人淡路青年会議所の基本理念である「明るい豊かなまちづくり」を実現するため、食材に限らず「淡路島らしさ」や「地域の担い」を生きた感動としてまるかじり体験していただき、さらに「見せ方」「感じさせ方」に驚きとアイデアを加え、自己満足で終わらない地域の変革を起こしたいと考え「感動“島”体験! 淡路島まるかじりフェスタ」を開催いたしました。



憧れの島創造委員会
委員長 柏木 敏孝
(当時 35才)



恋する神話くにうみ物語
辺見えみりさんをお迎えし、日本を創った夫婦の物語である“国生み神話”を新たな視点で発信する。そして淡路島をカップルの聖地にする。

御食国淡路島を食べつくす!
御食国として朝廷に食材を献上していた淡路島。豊かな山海の幸を生かし、より工夫を加えて提供し淡路島をまるかじり!

遊んで・感じて! 淡路島っ!
淡路島は歴史・文化・伝統・産業など他地域にない多くの魅力を持つ。伝え方に工夫をこらし求められる形で発信する。

事業を行った後の感想

開催趣旨である「淡路島のらしさや担いに驚きと感動を加えて発信する」ことを目指し、くにうみ神話を日本最初の恋物語として発信するために辺見えみりさんを招き、淡路島の人や技術は情熱大陸にも出演したカリスマ左官の久住有生さんに、また御食国としての淡路の食材をPRするために多くの出展者に協力いただきました。自分では気づきにくい外から見た目を大切に、よい意味での島国根性を生かし行動すれば必ずや淡路島は世の中から必要とされる島として、また光り輝き憧れを持っていただける島へと変革するはず。当日は7,393名の来場者に来ていただき大変な賑わいとなり趣旨は概ね伝わったように感じました。また出展協力いただいた方々にも事業の盛り上がりから趣旨が伝わり、今後さらなる活動に影響していくものと確信します。